2020年度　サポートシステムあゆみ　事業報告

生活介護・放課後等デイサービス・居宅介護・重度訪問介護・行動援護・同行援護

地域生活支援事業・インフォーマルサービス

サポートシステム　あゆみ　施設長　戸田拓郎

前年度末からの新型コロナウイルス感染拡大に伴い、様々な影響を受ける1年間となった。法人行事の自粛や各事業において一時的に時間短縮、在宅支援等の対応を取った他、利用者が利用自粛される事も多くあった。特に行動援護・移動支援等の外出支援においては、外出先の制限も多く、利用数が前年度を大きく下回った。また、12月下旬（休暇前）に利用者数名が新型コロナウイルス陽性者であった為、法人全体での自主休業をしていった。その他感染拡大を防ぐため、手指消毒・検温・換気・フェイスシートの着用等の感染防止対策を徹底した。また日々、活動場所、車内等の消毒作業を徹底して行っているが、職員の負担も大きくなっている。

各事業とも、コロナ禍で色々な活動の制約や環境の変化がある中、利用者は戸惑いもあるものの、思いの他柔軟に適応しているように感じられる。しかし、事情によっては我慢する事も多く、フラストレーションを溜めやすい状態にあり、これまで以上に一人ひとりの思いにしっかりと寄り添う事が大切であったと思う。それぞれの活動において、感染防止策を取りながら、できる限り利用者の思いを実現できるよう、またそれが叶わない場合にも代替の楽しみや手段を考え、工夫を重ねて支援してきた。

職員研修に関しては、予定していた外部研修が中止される事が多く、参加できたのは一部のみとなった。密をさける為、内部研修も各班での会議時に虐待防止についての意見交換を行った他は行わなかった。代わりに、試験的にWeb研修を取り入れ、各職員が自主的に受講する形を取った。

　職員体制としては、法人全体での人事異動があり、班長等の編成に変更もありスタート時は少し混乱することもあった。また、前年度より若干分少ない状況であった為、途中で常勤職員1名を採用した。

10月には、奈良市より本事業所への実地指導があり、運営規程や重要事項説明書の記載内容の一部に不足や誤り等があった他、支援計画の未作成が1件あった事等を是正する指導を受け改善することとなった。いずれも軽微なものであり、奈良市ホームページでの公表とはなっていない。

　2月には、北側ウッドデッキにスロープが完成した。これにより緊急時にスムーズに避難できるようになり、また日々の活動においても芝生広場に出やすく、屋外活動を行いやすくなった。

【生活介護事業（ふきのとう班）】

　・班所属の利用者13名に加えて、オープンスペース‘AYUMI’から週２回活動参加する方や、他事業所通所の方で週一回利用する方等もあり、日によって利用者の構成に変化がある状態である。

・新型コロナウイルス感染防止の為、消毒や環境整備等に結構な時間を必要とした。また、短縮通所等により午後の活動の時間が十分に確保できない為、活動内容にも午前午後を入れ替える等工夫をした。感染防止の観点より、ＯＳとの往来を極力少なくする為にクラブ活動も中止となり、その時間の金曜日の午後は基本的にリラクゼーションに充てることとなった。また、地域でのポスティングに関しては、5月から10月の間と1月以降は自粛している。

・コロナ関連での分散通所や通所自粛される方については、在宅支援を行った。

・法人全体の行事がなくなり、単調な活動になってしまう為、刺激や気分転換となるよう劇の発表や小運動会、季節行事等班内で色々とイベントを実施した。

・通所日が少なくなったり、活動内容が制限されたりする影響もあり、利用者全般に運動不足の傾向があり、後半には散歩や芝生広場等で運動する機会を多く持てるようにした。

【放課後等デイサービス】

4月の緊急事態宣言を受けて、4月後半から5月末にかけて利用自粛を呼びかけた。家庭の事情により一部の利用者は受け入れ、他の利用者へは可能な限り在宅支援を行った。6月に通常事業を再開してからは、以前と変わりなく利用される方も多く、また利用頻度が増えた方や新規の利用者もあり、前年度を上回る利用があった。

 新型コロナウイルス感染予防の為、8月からは調理プログラムを取りやめ、別のプログラムを行った。感染が急増した1月からはおやつの提供も中止した。

屋外の人の多い場所への外出を避けたり、室内活動では密状態を回避したりと、活動内容にも制約が多かった。そのような状況でも、出来る限りのびのびと活動し色々な体験ができるよう、活動場所や時間帯を分け、物の共有が無いように準備物や環境に工夫してサービスを提供した。

また、土曜日プログラムに関しては、外出プログラムが中心の為、感染リスクを考え8月以降は実施していない。

【居宅介護・重度訪問介護・行動援護・同行援護】

・居宅介護は毎週利用されていた方が転居により退会された事と、利用者の通所における在宅支援や自粛により通所する機会が少なくなり、準備支援の回数が少なくなり、利用時間数は前年度より1割強の減少となった。

・行動援護は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大幅に利用数が減少した。特に緊急事態宣言発令中は、不要不急の外出に対する支援はお断りした。宣言解除後は受け入れを再開したが、利用自粛される方も多くあった。県外や屋内施設・プール・入浴施設等を避ける等の外出先の制限もあり、感染拡大前と同様にはできないが、少しでも余暇を充実していただくために、新たな外出先や過ごし方をこちらから利用者の方に提示し、短時間でも楽しめるよう支援した。

・同行援護は2名が安定して利用継続されている。重度訪問介護は今年度も対象者がいなかった。

【地域生活支援事業（移動支援・日中一時支援）】

・移動支援は行動援護と同様に新型コロナウイルス感染拡大の影響で利用数は大きく減少している。

・日中一時支援は、引き続き成人の平日日中プログラム「ちょこっとステイ」での利用があり、緊急事態宣言発令中は利用が減ったが、それ以降は大きな増減はなかった。「ちょこっとステイ」においても1月以降おやつの提供を取りやめた。毎年恒例のクリスマス会は感染拡大防止の為、実施しなかった。

【インフォーマルサービス】

　　例年通り「ちょこっとステイ」（日中一時支援以外）の他、必要に応じてレスパイトサービス、送

迎サービスを行った。

音楽プログラム「ケチャケチャ」は感染拡大防止の為、前・後期とも実施しなかった。